平成３０年度

社会福祉法人　阿闍羅会

障害福祉サービス事業所

ワークショップ大鰐

【就労継続支援Ｂ型】

事業報告書

令和元年５月２４日作成

住　所：青森県南津軽郡大鰐町大字虹貝字篠塚３３－１１

電　話：０１７２－４８－３６６２

ＦＡＸ：０１７２－４８－３０２８

目次

〈Ⅰ〉法人 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1　理事会・評議員会等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2　役員及び評議員の退任と選任 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
3　共同生活援助事業グループホームつつじの廃止 ・・・・・・・・・・・ 1
4　永年勤続表彰 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

〈Ⅱ〉施設経営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
1　職員行動目標に関する報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2　職員の入退職 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3　しいたけハウス建設 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
4　自己評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（1）評価結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（2）分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

〈Ⅲ〉支援内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
1　生活支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
2　就労移行支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
3　作業支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １０
（1）農産事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １０
（2）しいたけ事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１
（3）内部事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１
4　工賃向上計画に関する報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２
5　保健支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３
6　余暇活動支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４
（1）行事等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４
（2）利用者会活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５

〈Ⅳ〉給食 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７

〈Ⅴ〉防災 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８

〈Ⅵ〉広報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １９

〈Ⅶ〉会議 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２０

〈Ⅷ〉研修 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２２

〈Ⅸ〉苦情解決 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２４

〈Ⅹ〉地域生活支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２５

〈Ⅺ〉共同受注窓口 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２６

〈Ⅻ〉安全巡視（虐待防止委員会） ・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２７

〈Ⅰ〉法人（担当：田中大生）

1　理事会・評議員会等

年月日（曜日）	事業	場所	参加者
平成３０年　４月２７日（金）	第１回　理事会	ワークキャンパス大鰐	理事　５名 監事　１名
５月２２日（火）	監査会	ワークキャンパス大鰐 ワークショップ大鰐	監事　２名
５月２８日（金）	第２回　理事会	ワークキャンパス大鰐	理事　６名 監事　１名
６月１５日（金）	第１回　評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員５名
９月２６日（水）	第３回　理事会	ワークキャンパス大鰐	理事　６名 監事　２名
９月２７日（木）	第２回　評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員６名
１１月１３日（火）	第４回　理事会	ワークキャンパス大鰐	理事　５名 監事　２名
１１月１４日（水）	評議員選任･解任委員会	ワークショップ大鰐	委員　３名
１１月１４日（水）	第３回　評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員６名
平成３１年　３月１９日（火）	第５回　理事会	ワークキャンパス大鰐	理事　６名 監事　２名
３月２６日（火）	第４回　評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員５名

2　役員及び評議員の退任と選任

平成３０年　９月１９日　評議員 中島謙一 死去による退任
　　１１月１４日　評議員 工藤美生 選任及び就任
平成３１年　３月　９日　評議員 外崎俊一 死去による退任
　　１９日　監事 佐藤眞一 選任（就任４月１日）
　　３１日　監事 笹田和夫 ワークキャンパス大鰐入職による退任
令和　元年　５月２９日　評議員 山口守一 選任予定

3　共同生活援助事業グループホームつつじの廃止

建物の老朽化と利用基部御者不在により、平成２９年９月１日に休止した当該事業を、平成３０年１０月３１日を以て廃止した。

4　永年勤続表彰

（1）日時　　平成３０年１１月２３日（土）勤労感謝の日　１１：００～１３：００
（2）場所　　不二やホテル
（3）表彰

ア　社会福祉法人阿闍羅会就業規則第４３条（表彰）第１項の規定により、下表の５名に対し永年勤続（平成３０年４月１日現在で在職１０年以上）表彰。

イ　法人創立２０周年にあたり、勤続１０年以上の役員（３名）、委託医（１名）及び非常勤職員

等（５名）に対して感謝状を贈呈。（次回は、2027 年 創立 30 周年時）

＜被表彰者等一覧＞

職　名	氏　名	採用(H)	勤務年数	備　考
理事・評議員	中島　謙一	12. 12	15 年 8 か月	感謝状
理事・評議員	相馬　康穫	19. 4	11 年 0 か月	感謝状
評議員	岩淵　安孝	19. 4.	11 年 0 か月	感謝状

職　名	氏　名	採用(H)	勤務年数	備　考
施設長	佐藤　直幸	17. 9. 1	12 年 7 か月	表彰状
支援課長	中平　恵美	19.12.3	10 年 3 か月	表彰状
生活支援・職業指導員	竹内　友紀	19. 6. 1	10 年 10 か月	表彰状
支援主任	中嶋　綾子	19. 1. 1	11 年 3 か月	表彰状
職業指導員	幸山　稚子	18.12. 1	11 年 4 か月	表彰状

職　名	氏　名	採用(H)	勤務年数	備　考
委託医	小山内幹浩	9. 4. 1	21 年 0 か月	感謝状
職業指導員（非）	神　　則男	13. 4. 1	17 年 0 か月	感謝状
調　理　員（非）	三浦　節美	18. 5.20	11 年 10 か月	感謝状
職業指導員（非）	小林　　一	18.12. 8	11 年 3 か月	感謝状
職業指導員（非）	山中　美雪	19.12. 1	10 年 4 か月	感謝状
ＧＨ世話人（非）	中島　敏子	12.10. 1	17 年 6 か月	感謝状

※　勤務年数は、平成３０年４月１日現在

〈Ⅱ〉施設経営

1　職員行動目標に関する報告（担当：白石安英）

（１）利用者の支援

平成２９年度の課題であったフェイスシートの見直しは実施できなかったため、引き続き平成３０年度の課題とした。平成３０年９月までに新フェイスシートの書式変更が完了し、改定アセスメントシート（生活領域・就労領域に分割）への入力、サービス管理責任者の内容確認を経て、平成３０年１０月の三者面談において、保護者への正誤確認と未記入か所の追記を実施した。このことにより、平成３１年度に向けた利用者支援の基礎である個別支援計画の見直しを実施できた。

（２）仕事（作業）面の支援

平成３０年１０月までにしいたけハウス２棟新築、C ハウス１棟を移設し、法人全体でのしいたけ生産の基盤整備が完了した。ワークキャンパス大鰐は、平成３０年１２月からの収穫開始に向けその準備と品質の更なる向上に向けて取り組んだ。部品組立では、作業の正確性向上のための支援に取り組んだ。また、ワークショップ大鰐では、利用者・職員ともに次年度のしいたけの本格生産に向け、作業の習熟度向上に取り組んだ。長ネギの生産については、しいたけ一本化に向け今年度で生産を終了する。その他、受注作業（リサイクル、縫製、タオル印刷

等）については、利用者の実態や状況に合わせて安定して作業に取り組めるようスキルアップとともに精神面でのフォローもしながら支援に取り組んだ。

（３）地域生活（グループホーム）の支援

グループホームの世話人・宿直員のスキルアップに向けた取り組みは、昨年度より研修案内等により研修参加を促してきたが、変則的な勤務であることや設定時間が制限される状況等により参加実績は中々伸びなかった。このような課題解決のため、グループホーム関係者会議の中でミニ研修やグループホーム毎の話し合いの場を設定するなどして、具体的な問題解決に向けた取り組みを実施した。課長・サービス管理責任者の定期的な訪問は、勤務上難しい側面があったが、問題が予想されるケースの速やかな対応やバックアップ施設との情報共有・連携推進は、状況に応じて進めることができた。

（４）職場の環境

平成２９年度から取り組んでいる「ストレスチェック（ストレス簡易調査）」を今年度も実施し、内容の精査により職員のストレス状況を把握し、職場環境の改善を図るとともに個別面談等により職員個々の勤務状況を把握することにより働きやすい職場環境作りに努めている。

２　職員の入退職（担当：白石安英）

（１）入　職

平成３１年　３月　１日　世話人　渡邊亜希子
３月１１日　世話人　長内とし子
４月　１日　ワークキャンパス大鰐　支援課長　笹田和夫

（２）退　職

平成３１年　３月２０日　職業指導員　石戸谷健
３月３１日　世話人　山内恵美子
３月３１日　世話人　棟方菜生子

３　しいたけハウス建設（担当：佐藤直幸）

青森銀行より融資を受け、地盤整備を（株）片山組に、しいたけハウス建設を（株）弘果物流に決め、平成３０年５月１５日、地盤整備及びハウス建築開始した。

当初予定をした新築ハウス２棟の他、追加工事を行い旧Ｃハウスの移設を実施。地盤整備及び新築ハウス２棟は施主検査の上、１０月１８日引き渡しを完了。旧Ｃハウス移設は、１１月２７日施主検査の上引き渡し完了した。

４　自己評価（担当：田中大生）

（1）評価結果

【共通評価基準】

Ⅰ　福祉サービスの基本方針と組織			
Ⅰ－1　理念・基本方針			
Ⅰ－1－（1）	理念、基本方針が確立・周知されている。		自己評価結果
1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
Ⅰ－2　経営状況の把握			
Ⅰ－2－（1）	経営環境の変化等に適切に対応している。		自己評価結果
2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a
Ⅰ－3　事業計画の策定			
Ⅰ－3－（1）	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		自己評価結果
4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
Ⅰ－3－（2）	事業計画が適切に策定されている。		自己評価結果
6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
7	②	事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a
Ⅰ－4　福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組			
Ⅰ－4－（1）	質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		自己評価結果
8	①	福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
9	②	評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
Ⅱ　組織の運営管理			
Ⅱ－1　管理者の責任とリーダーシップ			
Ⅱ－1－（1）	管理者の責任が明確にされている。		自己評価結果
10	①	管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
11	②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
Ⅱ－1－（2）	管理者のリーダーシップが発揮されている。		自己評価結果
12	①	福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a
13	②	経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a

Ⅱ－２　福祉人材の確保・育成

Ⅱ－２－（１）　福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。			自己評価結果
14	①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	c
15	②	総合的な人事管理が行われている。	c
Ⅱ－２－（２）　職員の就業状況に配慮がなされている。			自己評価結果
16	①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	b
Ⅱ－２－（３）　職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			自己評価結果
17	①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
18	②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
19	③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
Ⅱ－２－（４）　実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。			自己評価結果
20	①	実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	c

Ⅱ－３　運営の透明性の確保

Ⅱ－３－（１）　運営の透明性を確保するための取組が行われている。			自己評価結果
21	①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	c
22	②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a

Ⅱ－４　地域との交流、地域貢献

Ⅱ－４－（１）　地域との関係が適切に確保されている。			自己評価結果
23	①	利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
24	②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	c
Ⅱ－４－（２）　関係機関との連携が確保されている。			自己評価結果
25	①	福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
Ⅱ－４－（３）　地域の福祉向上のための取組を行っている。			自己評価結果
26	①	福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	a
27	②	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	c

Ⅲ　適切な福祉サービスの実施

Ⅲ－１　利用者本位の福祉サービス

Ⅲ－１－（１）　利用者を尊重する姿勢が明示されている。			自己評価結果
28	①	利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
29	②	利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a

Ⅲ-１-（２）	福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		自己評価結果
30	①	利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	b
31	②	福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	b
32	③	福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	b
Ⅲ-１-（３）	利用者満足の向上に努めている。		自己評価結果
33	①	利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
Ⅲ-１-（４）	利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		自己評価結果
34	①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	c
35	②	利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a
36	③	利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
Ⅲ-１-（５）	安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		自己評価結果
37	①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
38	②	感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
39	③	災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	c

Ⅲ-２　福祉サービスの質の確保

Ⅲ-２-（１）	提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		自己評価結果
40	①	提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a
41	②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
Ⅲ-２-（２）	適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		自己評価結果
42	①	アセスメントにもとづく個別支援計画を適切に策定している。	a
43	②	定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。	a
Ⅲ-２-（３）	福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		自己評価結果
44	①	利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化さている。	b
45	②	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	b

【内容評価基準】

Ａ－１　利用者の尊重と権利擁護

Ａ－１－（１）　自己決定の尊重			自己評価結果
Ａ①	①	利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a
Ａ－１－（２）　権利侵害の防止等			自己評価結果
Ａ②	①	利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	a

Ａ－２　生活支援

Ａ－２－（１）　支援の基本			自己評価結果
Ａ③	①	利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
Ａ④	②	利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	a
Ａ⑤	③	利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	a
Ａ⑥	④	個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	a
Ａ⑦	⑤	利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	a
Ａ－２－（２）　日常的な生活支援			自己評価結果
Ａ⑧	①	個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	a
Ａ－２－（３）　生活環境			自己評価結果
Ａ⑨	①	利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	a
Ａ－２－（４）　機能訓練・生活訓練			自己評価結果
Ａ⑩	①	利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	b
Ａ－２－（５）　健康管理・医療的な支援			自己評価結果
Ａ⑪	①	利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	a
Ａ⑫	②	医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	c
Ａ－２－（６）　社会参加、学習支援			自己評価結果
Ａ⑬	①	利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	a
Ａ－２－（７）　地域生活への移行と地域生活の支援			自己評価結果
Ａ⑭	①	利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
Ａ－２－（８）　家族等との連携・交流と家族支援			自己評価結果
Ａ⑮	①	利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a

~~Ａ－３　発達支援~~

~~Ａ－３－（１）　発達支援~~			~~自己評価結果~~
~~Ａ⑯~~	~~①~~	~~子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。~~	~~c~~

Ａ－４　就労支援

Ａ－４－（１）　就労支援			自己評価結果
Ａ⑰	①	利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	a
Ａ⑱	②	利用者に応じて適切な仕事内容等となるような取組と配慮を行っている。	a
Ａ⑲	③	職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	a

（２）分析

ア　共通評価基準

理念・基本方針については、明文化され職員に周知されているが、わかりやすく説明された資料の作成と利用者や保護者への周知が図られていない。

経営状況の把握・事業計画の策定は、職員間では明確にされ適切に策定されているが、保護者や利用者には周知されていなかったため、事業計画書を利用者・保護者へ配布し、保護者会で説明した。（番号７評価結果ｃ→ａ）

福祉サービスの質の向上に向けた取り組みのひとつとして自己評価を行い、その結果に基づいた改善計画の策定とその取り組みにより改善された。（番号９評価結果ｃ→ａ）

組織の運営管理として管理者の責任とリーダーシップの項目は評価が良いが、人材確保や育成については、体制の整備も配慮もいまだ脆弱である。平成２９年度末に青森県保育・障害福祉サービス事業所等認証評価制度に参加宣言をした事により、その項目のひとつである「福祉人材育成の取組」について、社会保険労務士からの助言をもらい、取り組みを進めている。順次施行中。

運営の透明性と地域交流地域貢献については、取り組んでいるところと取り組んでいないところが分かれる。できる項目からひとつずつではあるが、今後の取り組みを必要とする。

適切な福祉サービスの実施として、基本的人権の尊重、プライバシー保護、権利擁護などはマニュアルの整備もされ取り組みがされている。しかし、まだ取り組まれていない部分がいくつかあり、福祉サービスの提供に関する説明に関する取り組みを次年度の課題とする。

サービスの質の確保についての取り組みは、実施方法が確立され、適切に計画が策定されている。すぐに取り組まなければならない問題は特にないが、記録方法とその管理を見直す。

イ　内容評価基準

利用者の尊重と権利擁護、生活面の支援、就労面での支援は十分に実施されていて、今後も継続していきたい。ちなみに当法人において児の支援を行っていない（対象外）ため、発達支援については評価しない。

（３）令和元年度事業計画書 計画内容

評価結果と分析・統括から、下記のとおり計画した。

ア　理念・基本方針の、わかりやすく説明された資料の作成と利用者や保護者への周知

イ　福祉人材の確保と育成に関する方針の確立並びに計画の策定及び周知

ウ－１　地域との関わり方について基本的な考え方を文書化

－２　活用できる社会資源や地域の情報収集並びに利用者や保護者への提供

エ　理念や基本方針、実施する福祉サービスの内容や福祉施設・事業所の特性等を紹介　した資料を言葉づかいや写真・図・絵の使用等で誰にでも解りやすい内容で作成し、公共施設等の多くの人が入手できる場所に置く

（４）取り組み担当者

ア　白石安英

イ　佐藤直幸

ウ　田中大生

エ　中平恵美

〈Ⅲ〉支援内容

1　生活支援（担当：山内彩子）

日常生活に必要な、基本的生活習慣の自立を目的とした。

自立性を養い、毎日の積み重ねによって望ましい習慣の形成や、社会生活の態度・性格の社会的適応性を育成し、地域生活への移行を念頭においた支援をした。

また、グループホーム利用者においては保護者や世話人などと情報共有しながら快適な生活を送れるよう支援した。

（１）支援内容

ア　基本的習慣の定着

あいさつ、排泄、生理の手当て、衣類の着脱・調整・たたみ方、歯磨き、手洗い、食事とその後始末、整理整頓、掃除、洗濯支援をした。

イ　コミュニケーションの支援

言語の表出が難しい利用者に対しては、できるだけ普通の言葉で話しかけ、行動を気に掛けるよう配慮した。

パニックに対する本人への支援としては、本人が伝えたいことがあるなどに職員が気づくことや、本人が理解できるよう視覚支援を用いたりした。

ウ　行動に支障がある利用者に対する支援

精神障害に関する理解とそれに関する支援として、利用者が納得できるまで話しを聞き、できるだけ本人の気持ちに寄り添えるよう配慮した。

身体障害（盲・聾を含む）に関する理解とそれに関する支援として、筆談を用い、作業説明をするときなどは、個別に話す、顔をみて話すなどの配慮をした。

また、車輌の乗り降りなど介助が必要な際など安全面に配慮した。

発達障害に関する支援として、それぞれの特性に応じた環境作り（特性に応じた作業に取り組ませる）やスケジュールの変更などは、事前に知らせるなど配慮した。

エ　日常生活を送る為に安全な環境作りの支援

作業場を整理整頓し足場等に危険がなく、利用者が作業しやすいように配慮した。

行事活動及び休憩時間等に怪我をしないように注意した。

奇数月に職員が両施設やグループホームの安全巡視を行い危険と思われる箇所の改善を行った。

ヒヤリ・ハットの報告を徹底し未然に事故が起きないように、また再発防止に勤めるように話し合いを行った。

2　就労移行支援（担当：田中大生）

（１）実習並びに就労実績

ア　実習実績　なし

イ　就労実績　１名

（ア）氏　名　　長内幸之祐さん

（イ）年　月　　平成３０年６月

（ウ）就労先　　山郷館くろいし　（青森県黒石市八甲６４－１）

（エ）就労内容　館内清掃　等

（２）就労アセスメント

ア　実績　１名

（ア）氏　名　　吹田大輝さん

（イ）期　間　　平成３０年１０月９日（火）～１９日（金）　内８日間

（ウ）場　所　　ワークキャンパス大鰐

（エ）結　果　　作業理解はできるが意欲が見られない。よって、作業態度と作業遂行能力が平均に満たない。一般就労には解決すべき課題が多いため、就労継続支援Ｂ型を利用しながら機会を見て、就労移行もしくは就労継続支援Ａ型を目指すのが適切である。

（３）次年度への課題

平成３０年度は、７名利用者のうち、１名の一般就労、１名の退所及び１名のＢ型への契約の変更があった。残る４名の利用者については、本人・保護者の希望も受け、施設内での作業をしながら作業技術や就労意欲の向上に向けて取り組んできたところであるが、一般就労に向けたレベルへの到達はまだ困難な状況。

企業からの求人レベルは高く、在籍している利用者とのマッチングが難しい状況である。

また、就労に結びつけることができなければ施設の収入は減額されていくという状況から、周辺の状況が利用者にとってより良い状況となるまで、当面の間事業を休止し変化を見極めたい。

令和元年６月１日より令和３年１０月２９日まで、就労移行支援を休止する。

３　作業支援（担当：中嶋綾子）

法人全体でしいたけ栽培に取り組み、ワークショップ大鰐の職員が収穫や移動の他ハウスの管理や乾燥しいたけ作りなど幅広く携わることができた。これにより、多くの利用者がしいたけ作業へ取り組むための体制がとれるようになった。作業を細分化し、さらに取り組みやすい体制が確立したこともあり、令和元年度は、さらに多くの利用者が様々なしいたけ作業を修得できる支援を行いたい。

平成３０年度目標工賃平均月額８，０００円に対し、支給工賃平均月額は８，２４０円であった。

（１）農産事業（担当　山中司）

ア　年間合計収入　　１，３４６，３３５円

（ア）野菜栽培

①　収入合計　　１，３４１，３３５円

②　栽培品目　　長ネギ

③　販売先　　近隣ラーメン店、鰐カム、大鰐町学校給食センター、いとく（株）あらき（幸楽苑）、マルダイ、近隣住民

④　内容及び次年度の課題

地域住民からの要望もあり長峰畑に無人販売を設置している。

台風や大雨の影響で１～２番目の畑の水はけが悪く、所々成長が悪く生育に影響が見られた。

また、平成３０年度は近隣販売に力を入れ、無人販売の設置や近隣店舗への納品量を増やし収入を上げることができている。

マルダイ（ラーメン屋）への納品量（注文量）が当初予想していた量より少なく、収

入が思っていたほど上げることができなかった。

農産事業は今年度で終了となる。

（イ）施設外作業

① 収入合計　　５，０００円

② 作業内容　　リンゴ収穫、枝拾い

③ 内容及び次年度の課題

近隣農家へ出向き作業を行った。リンゴ収穫作業の委託を受け、リンゴ運びなどを行った。

（２）しいたけ事業（担当：幸山稚子、鎌田健司、山内彩子）

ア　年間収入　　２，１００，０００円

（ア）平成３０年度の状況

昨年度の課題となった、収穫及び菌床移動に関して、昨年度の１１名から人数を増やし出来るだけ多くの利用者を導入し作業をおこなってが、収穫・菌床移動に関して見落としが多い利用者が多く、特に対面のしいたけや芽に気付くようになるにはまだ支援が必要と思われる。

しいたけ加工作業に関して１０名前後の利用者が、足切り作業・計量・袋詰め・シール貼り作業をおこなったが、足切り作業に関してはできているが、計量・袋詰めに関してまだ支援が必要と思われる。また、シーラーに関して職員のスキルアップも必要と思われる。

（イ）次年度の課題

収穫・菌床移動・散水（高圧洗浄含む）・干しいたけの計量・シーラーが出来る利用者の育成。

（３）内部事業（担当：中嶋綾子）

ア　年間合計収入　１，６４０，８５３円

（ア）受託部門

①　（有）アール（縫製作業）　２８４，２５４円

作業量の増減はあるものの１年を通して作業を頂くことができている。難易度の高い作業も多いが利用者も繰り返し作業することでスキルも上がり取り組める利用者も男女問わず増えてきた。受託作業なので収入増とは簡単にはいかないが利用者のスキルアップのツールの一環として来年度も取り組んでいきたい。

② 東北クリーン（リサイクル）　１，００９，７８７円

日々途切れることなく作業に取り組むことができ、利用者の作業能力向上にも繋がった。また各家庭からの協力もあり収入の安定も図ることができた。しかし新規の回収場所の確保までに至らず収入は昨年と横並びであった。

③ その他

雑収入　９，４００円

（イ）自主部門

① タオル名入れ印刷　３３７，４１２円

現在取引があるかっぱ温泉や山口石油からの受注に関しては昨年同様の注文を頂いているが新規顧客確保までには至らず利益増には繋がらなかった。

４　工賃向上計画に関する報告（担当：山中司）

（１）目標工賃達成状況

		実績				目標	平成30年度
		27年度	28年度	29年度	30年度	1年度	対27年度比
A 目標平均工賃(月額)　(円)	E÷F	6,666	7,599	8,103	8,240	8,000	123 %
B 年間総収入　(千円)		8,891	5,279	4,221	5,648	4,300	63 %
C 年間総原価(工賃除く)(千円)		5,859	3,482	1,988	1,677	460	28 %
D 工賃支払前収支　(千円)	B－C	3,032	1,797	2,233	3,971	3,840	130 %
E 年間工賃総額　(千円)		2,922	2,611	3,196	3,447	3,840	117 %
F年間延べ利用者数　(人)		438	343	394	418	420	104 %

※ 工賃実績平均値計算式　総支給工賃÷総開所日数（行事日を除く）×２０日

※ 新規利用者利用開始から３ヶ月分と、不定期利用者は計算から除く。

ア　平成３０年度は目標工賃を８，０００円に設定した。達成状況は目標を２４０円上回る８，２４０円。さらに約５２４，０００円の黒字決算となった。これは、平成２９年度の作業種目を削減し、しいたけ事業（作業）にワークショップ大鰐の利用者と職員が携わることとなったが収入計上をしなかった状況から、平成３０年度は、予算計上した上で法人全体がしいたけ事業（作業）に関わることとし、ワークショップ大鰐の収入に計上することができたからである。

イ　平成３０年度のもう一つの目標であった経費削減については、農産事業に係る経費を十分に抑えることができた。当年度に於いて農産事業を終了することが決まっていたため、次年度に繋ぐための機器類や農地の維持管理に関する経費がかからなかったからである。皮肉にも平成２９年度に比べ農産事業の売上が向上している。

（２）次年度の工賃向上へ向けた課題と取り組み

ア　農産事業

平成３０年度は、新規に「麺屋マルダイ」との販売契約をして売上増となり、「麺屋マルダイ」を含む今までの取引先からも継続して栽培（販売）をして欲しいという要望から後ろ髪を引かれる思いではあったが、長ネギの栽培は、平成３０年度を以て終了した。しいたけ事業に力を注ぐ。当農地は、売却する方針で農業委員会へ通知済。

イ　しいたけ事業

平成３０年度は、主に半日（午前中）の作業をしてきたが、後半から１日を通して作業へ関わるように職員と利用者の配置を工夫してきた。令和元年度は、基本的に１日を通して職員２人体制とり、利用者の当作業に携わる人員を増やすことができるように取り組む。このことに必要な、課題分析と細分化を行い、利用者一人ひとりができる仕事を増やす。その為にも、職員のしいたけ栽培やハウス管理の更なる習熟が必要。

ウ　内部事業

（ア）縫製（㈲アール）

現状維持の作業受託。繁忙期（５月～６月）に職員の手が回らなくなるため、利用者と職員の技術を高め作業効率を上げることができるようにしたい。また、閑散期には携わることのできる利用者増やすための育成を行う。

（イ）リサイクル（東北クリーン）

利用者は当作業に慣れ効率よくしかも回収以外は全て利用者のみで行うことが可能になっている。この状態を継続するためにも、回収量の増による収入増につなげ、老朽化した回収トラックの購入資金としたい。また、慣れることによる弊害として、マイルール（自分の都合のよいやり方）の常態化や、利用者同士のトラブルを起こさないために、良い状態を持続するための工夫が必要。

（ウ）タオル印刷

安定継続して、カッパ温泉からの受注がある。このことから注文がない時でも作業全体に余力がある日にはタオル印刷を行い、作業が集中せず注文にいつでも対応できるよう余裕を持った在庫確保をしたい。

5　保健支援（担当：山内彩子）

（1）保健指導年間実施表

定期健康診断	６／４～２０　、　１１／２
身体測定 （血圧・体重）	５／７　、　７／９　、　９／１０ １１／１２　、　１／７　、　３／１１

（2）体力測定

１０月２３日（火）　午後の作業を早めに切り上げ１４：４０～実施

（3）保健日誌からのまとめ

ア　感染症予防のうがい・手洗いを徹底し声がけを実施。（アルコール消毒液を設置）

イ　１２月よりインフルエンザ予防対策とし毎朝の検温を実施。

インフルエンザ予防接種を１２月７日（金）、希望利用者２２名に小山内医院でショップに往診し実施。今年度のインフルエンザ罹患者は１名。

ウ　女子利用者に生理の手当やエチケットについての保健指導を実施。

エ　毎日の利用者さんの表情や行動からその日の健康状態（特に精神状態）を把握し作業中の事故などを未然に防ぐ様に支援していく。

オ　梅雨時、夏場の気温上昇時は水分補給や休憩を増やすなどの対策をおこなったが、何人かの体調不良の訴えがあったため、今後も注意深く利用者さんの様子を観察しながら支援していく。

（4）利用者の健康状態

※　健康状態に留意した利用者１２名（詳細は別冊）

6　余暇活動支援

（１）行事等（担当：田中大生）

月日	曜日	行事名	参加者数	実施場所
4月14日	（土）	虹の会総会・三者面談	利用者25名 保護者26名	ワークショップ大鰐
4月28日	（土）	桜まつりにいこう	利用者21名	芦野公園
5月19日	（土）	調理学習（ハンバーガー）	利用者21名	ワークショップ大鰐
5月26日	（土）	カラオケ	利用者28名	カラオケ合衆国　城東店
6月23日	（土）	電車で買い物	利用者20名	弘前駅、駅ビル内店舗
6月26日	（水）	果物狩り	利用者34名	ゆめりんごファーム観光農園
7月14日	（土）	工作（デコマグネット）	利用者21名	ワークショップ大鰐
7月28日	（土）	海へいこう	利用者25名	浅虫海水浴場、道の駅アップルヒル
8月18日	（土）	流しそうめん	利用者20名	ワークショップ大鰐
8月21日	（火）	ふれあい広場	利用者32名	大鰐町総合福祉センター
8月26日	（日）	県障害者スポーツ大会	利用者20名	青森総合運動公園
9月9日	（日）	ワークまつり	利用者46名	ワークキャンパス大鰐
9月29日	（土）	収穫祭	利用者18名 保護者　8名	ワークショップ大鰐
10月13日 ～ 10月14日	（土）	宿泊訓練	利用者19名	岩木青少年スポーツセンター
10月20日	（土）	三者面談（秋）	利用者28名 保護者29名	ワークショップ大鰐
10月23日	（火）	体力測定	利用者33名	ワークショップ大鰐
11月2日	（金）	麺屋マルダイ　ご招待	利用者28名	麺屋マルダイ　堅田店
11月10日	（土）	DVD鑑賞	利用者18名	ワークショップ大鰐
11月17日	（土）	社会見学（りんご公園、長勝寺）	利用者23名	りんご公園、長勝寺
12月1日	（土）	利用者忘年会	利用者29名 保護者13名	青森ワイナリーホテル
12月22日	（土）	クリスマスお楽しみ会	利用者21名	ワークショップ大鰐
1月12日	（土）	映画（DVD）鑑賞	利用者18名	ワークショップ大鰐
1月26日	（土）	ボウリング大会	利用者29名 保護者12名	弘前ファミリーボウル
2月9日	（土）	映画館に行こう	利用者18名	イオンシネマ弘前
2月23日	（土）	調理学習（簡単はくさい鍋）	利用者20名	ワークショップ大鰐
3月16日	（土）	カラオケ	利用者32名	カラオケ合衆国　城東店

※　合計回数　２６回　、　延べ参加者　７３５名

（２）利用者会活動

ア　利用者全体会（担当：山内彩子）

偶数月の初日に１５時頃から、利用者会を実施。行事等の話し合いや、各委員会からの報告等をしてもらった。また、頑張った人の発表では、作業や生活面で頑張った人を発表し、利用者会から賞状を贈呈してみんなの前で今後の抱負などを発表してもらった。

実施日	主な内容
平成３０年　４月　６日（金）	・新会長，副会長の挨拶　　・新利用者紹介 ・利用者会会則変更説明　　・行事について ・その他（平成 30 年度の委員会の希望をとった。）
６月　１日（金）	・行事について ・行事の感想 ・頑張った人（4 月・5 月） ・各委員会から　　・その他
８月　１日（水）	・行事について　　・行事の感想 ・頑張った人（6 月・7 月） ・各委員会から ・その他（ワークまつり利用者出し物について）
１０月　１日（月）	・行事について　　・行事の感想 ・頑張った人（8 月・9 月） ・各委員会から ・その他　（朝の会で歌う歌の希望を募った。）
１２月　３日（月）	・行事について　　・行事の感想 ・頑張った人（10 月・11 月） ・各委員会から ・その他
平成３１年　２月　１日（金）	・行事について　　・行事の感想 ・頑張った人（12 月・1 月） ・各委員会から ・その他

イ　行事委員会（担当：山川裕紀子）

平成３０年度の計画にある「宿泊訓練」「収穫祭」「親子忘年会」「新年ボウリング大会」の行事について、下表のとおり会議を実施し、行事の内容･委員会の役割について会議を行った。行事委員会計画の行事については司会進行等の練習や各自の役割分担を決め積極的に行事遂行に携わった。

月	日	曜日	内　容	場　　所	備考
５	８	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１１名
５	２２	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１１名
６	１２	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１０名
６	２６	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１１名
８	１６	木	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１１名
８	２８	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１１名
９	１１	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１１名
９	２５	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１１名
９	１５	土	収穫祭	ワークショップ大鰐	保護者　７名 利用者１８名
１０	９	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１０名

１０	１３ １４	土 日	宿泊訓練	岩木青少年スポーツセンター	利用者１９名
１１	１３	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１１名
１１	２７	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１０名
１２	１	火	親子忘年会	青森ワイナリーホテル	保護者１３名 利用者２９名
１２	１１	土	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１１名
１２	２５	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１１名
１	９	火	行事委員会	行事委員会	利用者１１名
１	２６	土	親子ボウリング大会	さくら野ファミリーボウル	保護者１２名 利用者２９名
２	２８	木	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者１０名

ウ　お茶委員会（担当：鎌田健司）

利用者の毎日のお茶や作業用のお茶の準備、休憩時のテーブル拭きやおやつの準備など各担当を決めて行った。毎日の委員会の仕事を通し、自主性・責任感を養った。

各担当の活動日は、毎日『朝・休憩・昼休み』とし、それぞれの担当が不在の時は、別の担当者がおこなった。

また、毎月最終週の水曜日を会議日とし、翌月のおやつの計画をたてている。

月	日	曜日	内　　容	場　　所	備考
４	１	火	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名
５	２６	火	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名
６	２７	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名
７	２５	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　８名
８	３１	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名
９	２７	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名
１０	３１	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名
１１	２７	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　８名
１２	２６	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名
１	３０	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名
２	２６	火	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名
３	２７	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名

エ　広報委員会（担当：石戸谷健）

毎日の作業配置、毎月の行事、レクの写真、掲示物の張り替えをおこなった。

ポスター等を玄関やロビーに掲示した。

活動日（委員会会議）は、利用者全体会の翌日の１２：３０～１２：５０としておこなった。

月	日	曜日	内　　容	参加人数
４	１３	金	各役割を決めた	１１名
５	４	月	行事予定、先月の行事写真の掲示	９名
６	６	水	行事予定、先月の行事写真の掲示	７名

8	3	金	行事予定の掲示	9名
１０	2	火	行事予定、先月の行事写真の掲示	9名
１２	4	火	行事予定、先月の行事写真の掲示	9名
2	4	月	行事予定、先月の行事写真の掲示	7名
2	２５	月	次年度の利用者会役員選出、行事写真の掲示	8名

〈Ⅳ〉給　食（担当：山口美香）

1　平成３０年度　給食指導　　対象者　　男　3名　　女　7名　　計　１０名

指導内容	具体的指導方法	対象者
咀嚼・嚥下の補助	①　主菜・副菜～刻み食。	女２名 男２名
糖尿病対策	①　食事療法。	女２名
肥満対策	①　主食の量を少なくする。 ②　主菜・副菜～刻み食。	女４名 男２名
食事の補助	①　フォークの使用。	女１名

全体的に早食い傾向なので、全利用者に対して落ち着いてゆっくりよく噛んで食べ、口の中の物を飲み込んでから、新たに口に運ぶように声がけをしている。

自分で出来る事はやってもらえるように声がけで見守るようにする。

2　平成３０年度　年間行事食実施表

月	行　事	献　立　名	実施日	備　　考
7	七　夕	冷やしうどん	7月　6日	
9	十五夜	栗ごはん	9月１２日	
１０	いも煮会	米沢風いも煮	１０月　4日	
１２	冬　至	かぼちゃのいとこ煮	１２月２０日	
１２	クリスマス	コーンライス、ハンバーグ、パンプキンスープ、ゼリー（ｵﾚﾝｼﾞ）	１２月２５日	
3	ひなまつり	ちらし寿司	3月　1日	

3　平成３０年度　郷土食　　年２回　実施

4　平成３０年度　嗜好調査　　３ヶ月に１回　計４回　実施

5　平成３０年度　給食だより　　３ヶ月に１回　計４回　発行

6　まとめ・反省

・野菜の残食が減ってきているので、維持していきたい。
・全体的にも残食が減っているので、維持していきたい。
・郷土食を身近なメニューを取り入れて、増やしていきたい。
・個人の年齢、体調に考慮して、主食の量の調整していきたい。
・平成３１年度も健康的で、利用者に喜ばれる給食作りをしていくということを大切にしたい。

また、今年度も調味料のかけ過ぎと、よく噛んで食べることを目標にしたい。

〈V〉防災（担当：鎌田健司）

1　実施状況

（1）ワークショップ大鰐

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
５／１７	部分	11:10~11:20	地震	震度４　４０秒	駐車場	２分３０秒
９／２７	総合	10:15~10:30	火災	２階 食堂	駐車場	２分５４秒
３／　７	総合	10:30~10:45	火災	１階 事務室	駐車場	３分５４秒

ア　利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。

イ　「おはしも」の徹底（押さない・走らない・しゃべらない・もどらない）をした。

ウ　職員に対し、消火・誘導・放送の分担を明確にして責務を果たした。

エ　消火器を実際に使用して消火訓練を行なった。

（2）グループホームすみれ荘

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
９／２７	総合	17:00~17:15	火災	２階 居室	駐車場	１分１５秒
３／　７	総合	17:00~17:15	火災	２階 居室	駐車場	２分２３秒

ア　利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。

イ　「おはしも」の徹底（押さない・走らない・しゃべらない・もどらない）をした。

ウ　職員に対し、普段一人勤務のため、第一優先は「人命」であることを再確認した。

エ　避難する際に行うべき機器の取り扱いについて、世話人に指導した。

（3）グループホームこすもす

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
９／２７	総合	16:30~16:45	火災	２階 居室	駐車場	２分　８秒
３／　７	総合	16:30~16:45	火災	２階 居室	駐車場	３分２７秒

ア　利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。

イ　「おはしも」の徹底（押さない・走らない・しゃべらない・もどらない）をした。

ウ　職員に対し、普段一人勤務のため、第一優先は「人命」であることを再確認した。

エ　避難する際に行うべき機器の取り扱いについて、世話人に指導した。

2　次年度への課題・方向付け

（1）消防訓練実施要領細目の見直し。

（2）施設・グループホームで保管している災害時用の非常食や備品の在庫確認。

（3）世話人への災害時の対応方法に関する研修等の実施。

（4）グループホームでの休日等の世話人が不在時を想定した場面での訓練の実施。

〈Ⅵ〉広報（担当：田中大生）

１　広報誌「阿闍羅」（担当：山口美香、田中大生、幸山稚子、鎌田健司、石戸谷健）

（１）内容

ア　第１５号　平成３０年９月発行

１面　施設長あいさつ、しいたけ全国銀賞、

２面　利用者工賃向上への取り組み、しいたけ事業拡大、グループホーム紹介　他

３面　行事（桜まつり、遠足）、地域に向けた研修会の実施　他

４面　法人決算報告

イ　第１６号　平成３１年２月発行

１面　永年勤続表彰式、公開研修

２面　ワークまつり、行事（宿泊訓練、忘年会）、ノウフクマルシェ開催

（２）次年度への課題

平成３０年度は、年２回の発行ができた。しかし、予定した６月と１２月に発行できなかった。令和元年度は、タイムリーに発行できるようにすることにより、行事や事業の報告だけでなく、「ノウフクマルシェ」や、「ワークまつり」などのイベント開催の告知にも広報紙を活用できたらと考える。また、利用者の広報委員会からの記事や、職員のコラムのようなものにもチャレンジしてみたい。

２　ホームページ（担当：三上拓雄、田中大生、中嶋綾子、山内彩子）

（１）内容

更新できていない。

（２）次年度への課題

ホームページの更新の仕方の勉強会を実施し、更新することができる職員の育成をする。

３　その他の広報（担当：金枝友和、田中大生、山川裕紀子）

（１）大鰐文化協会総会等に出席

４月１９日（木）：文化協会総会　　大鰐町中央公民館

８月　９日（木）：文化協会理事会　大鰐町中央公民館

１０月１２日（金）：文化協会理事会　大鰐町中央公民館

１１月２７日（火）：文化協会反省会　大鰐町中央公民館

（２）大鰐町民文化祭への参加

平成３０年１１月２日（金）～４日（日）に大鰐町中央公民館で開催された大鰐町民文化祭に作品を展示。

（３）地域のまつり等へ参加

共同受注窓口を中心に、施設紹介を含め、生産物の紹介及び展示即売をしながら参加した。

「参加状況」

・大鰐温泉つつじまつり　　・鰐 come 祭り

・各施設のまつり　　・まるごと大鰐商人市

・農福連携マルシェ　　・もったいない広場＆ふくしマルシェ

〈Ⅶ〉会議

1　連絡調整会議（担当：田中大生）

開催日	構成員	会議内容
４／　５、　５／１７、　６／１８ ７／１２、　８／１０、　８／１７ ９／１３、１０／１１、１１／　６ １２／１７、　１／１７、　２／１９ ３／１４	施設長 課長 主任	・事業計画等の検討 ・法人自己評価検討 ・各規程等の見直し ・研修、次月の行事予定確認 ・処遇改善等に関する検討 ・GH 運営等の検討　　等

2　事業会議（担当：相馬良子、山中司）

開催日	構成員	会議内容
４／１２、　５／２４、　６／２１ ７／１９、　８／２３、　９／２０ １０／１８、１１／１５、１２／２０ １／２４、　２／２１、　３／１９	阿闍羅会 全職員	・行事日程 ・作業予定 ・収支報告 ・職員体制について ・事業展開について　　等

3　給食会議（担当：山口美香）

開催日	構成員	会議内容
４／１２、　５／２４、　６／２１ ７／１９、　８／２３、　９／２０ １０／１８、１１／１５、１２／２０ １／２４、　２／２１、　３／１９	阿闍羅会 全職員	・給食業務、内容の協議 ・嗜好調査の検討 ・調理、味付けの工夫等の検討 ・利用者給食指導の内容報告と検討等

4　ケース会議（担当：中嶋綾子）

開催日	回数	主な会議内容	構成員
４月１９日（木）	第　１回	①職員の資質向上に関すること	ワークショップ 大鰐全職員
５月３０日（木）	第　２回	・研修報告　・職員研修	
６月　７日（木）	第　３回	・ヒヤリハット事例検討	
７月　５日（木）	第　４回	②利用者の個別支援に関すること	
８月　９日（木）	第　５回	・支援計画書、モニタリング記録表	
９月　６日（木）	第　６回	・ケースカンファレンス	
１０月　４日（木）	第　７回	・家庭訪問記録、実習・就労支援記録表	
１１月　１日（木）	第　８回		
１２月　６日（木）	第　９回	・作業能力評価　・三者面談の内容報告	
１月１０日（木）	第１０回		
２月　７日（木）	第１１回	③行事計画に関すること	
３月　７日（木）	第１２回	・行事計画	
２８日（木）	第１３回		
４月　２日（火）	第１３回		

4　就労支援会議（担当：中嶋綾子）
第１回から第１２回までのケース会議と同日開催

5　グループホーム関係者会議

開催日	回数	主な会議内容	構成員
５月２４日（木） ７月１９日（木） ９月２７日（木） １１月２４日（木） １月２４日（木） ３月２０日（木）	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回	・GH 利用状況・利用者の状況 ・各伝達事項・確認事項 ・ミニ研修 法人基本理念（倫理綱領・職員行動規範）について ヒヤリ・ハットについて 対人援助の基礎について 障害者理解について 病気予防・受動喫煙防止　　等 ・各 GH 毎の話し合い	施設長 課長 主任 サービス管理責任者 栄養士

〈Ⅷ〉 研修（担当：田中大生）

1　研修等参加（実施）状況

【県社協・保健大学　主催研修】

実施日			研修名	場所	参加者
5月22日			障害児・者福祉施設新任職員研修	青森県立保健大学	石戸谷健
6月7日	～	6月8日	職場研修担当者研修	ウエディングプラザアラスカ	佐藤直幸
6月28日			社会福祉施設職員経理研修	青森県立保健大学	田中大生、三上拓雄、相馬良子
7月6日			栄養、食育マネジメントセミナー	青森県立保健大学	山口美香、三浦節美
8月23日			改正個人情報保護法・労務管理セミナー	福祉プラザ	三上拓雄、相馬良子
8月23日			中堅・指導的職員研修	青森県立保健大学	鎌田健司
8月27日		8月28日	中堅・指導的職員研修	青森県立保健大学	鎌田健司
9月7日			人権倫理委員会研修会	青森県立保健大学	佐藤直幸
10月27日			社会福祉トップセミナー	青森県立保健大学	白石安英
12月25日			虐待防止・権利擁護研修（従事者向け）	リンクステーションホール青森	山内彩子
12月26日			虐待防止・権利擁護研修（管理者向け）	リンクステーションホール青森	白石安英
1月23日			離職防止環境整備研修	ウエディングプラザアラスカ	中嶋綾子
2月19日			メンタルヘルス研修	ウエディングプラザアラスカ	佐藤直幸、田中大生
					計18名

【知的障害者福祉協会　主催研修】

実施日			研修名	場所	参加者
7月2日	～	7月3日	全国知的障害関係施設長等会議	東京国際フォーラム	佐藤直幸、白石安英
9月30日			青森県手をつなぐ育成会合同研修	県民福祉プラザ	田中大生
11月8日	～	11月9日	青森県知的障害者福祉協会職員・利用者研修会 東北地区知的障害者福祉協会職員研修会	ホテル青森	金枝友和、工藤春貴、三浦拓也 白石安英、石戸谷健、吹田公伸
2月6日			虐待防止研修会（実践コース）	弘前市社会福祉センター	田中大生、山中司、鎌田健司
2月25日			生産活動・就労支援部会職員研修会	県民福祉プラザ	植田善久、鎌田健司
					計14名

【青森県・市町村　主催】

実施日			研修名	場所	参加者
9月20日			大鰐町多職種連携研修会（口腔ケア）	大鰐町役場　議場	山内彩子、竹内友紀、木田繁子
11月2日			農福連携促進セミナー	青森国際ホテル	田中大生、（鎌田健司　欠席）
1月28日			大鰐町6次産業化実践セミナー	大鰐町中央公民館	山内彩子
					計5名

【阿闍羅会　主催研修】

実施日			研修名	場所	参加者
4月26日			職員スキルアップ研修　第1回	ワークショップ大鰐	21名
5月31日			第1回　ルーキー研修	ワークショップ大鰐	10名
6月23日			自動車安全運転研修	ワークショップ大鰐	31名
6月28日			第1回　ベテラン研修	ワークショップ大鰐	23名
7月26日			第2回　ルーキー研修	ワークショップ大鰐	15名
8月30日			第2回　ベテラン研修	ワークショップ大鰐	9名
9月27日			第3回　ルーキー研修	ワークショップ大鰐	8名

10月25日			第3回　ベテラン研修	ワークショップ大鰐	14名
11月22日			職員スキルアップ研修　第2回	ワークショップ大鰐	36名
12月27日			第4回　ルーキー研修	ワークショップ大鰐	13名
1月12日			虐待防止研修	ワークショップ大鰐	27名
1月31日			職員スキルアップ研修　第3回	ワークショップ大鰐	12名
2月28日			第4回　ベテラン研修	ワークショップ大鰐	15名
					計234名

【その他研修】

実施日			研修名	場所	参加者
5月21日			中小企業家同友会　津軽支部5月例会	弘前市総合学習センター	白石安英、田中大生
5月29日			安全運転管理者講習	大鰐町総合福祉センター	田中大生
6月7日			衛生管理者委員会研修	サンライフ弘前	三上拓雄
6月22日			安全衛生大会	ホテルクラウンパレス青森	山内彩子、山川裕紀子、三上拓雄、相馬良子
7月4日			サンマッシュ夏期セミナー、通常総会	JAふるさとシャイニーパレス	植田善久
7月19日			サンマッシュ夏期セミナー	ひばり野スポーツ交流センター	中畑幸、金枝友和、鎌田健司
7月30日			第40回青森県きのこ品評会表彰式	森林組合会館	中畑幸
8月22日			鰐come産直の会視察研修会	観光農園あぐりの里おいらせ	山中司
9月14日			中小企業家同友会　津軽支部9月例会	鰐come	白石安英、田中大生
10月6日			久慈　越戸きのこ園　見学研修	越戸きのこ園	秋元広光、二川原一男、佐藤直幸 植田善久、金枝友和、三上拓雄、田中大生
10月7日			障害のある人のライフプランセミナー	鰐come	白石安英、田中大生
11月3日			親亡きあとの相続に関する勉強会	弘前市社会福祉センター	中平恵美、中畑幸、木田繁子 三浦江利子、白石安英、田中大生
11月20日			社会福祉簿記研修	盛岡アイーナ	相馬良子
11月24日			オンブズマンネットワークセミナー	アップルランド	19名
1月29日	～	1月30日	全国サンマッシュ生産協議会　全国大会	ホテル東日本宇都宮（栃木県）	植田善久、金枝友和
2月14日			第99回社会福祉会計・経営セミナー	盛岡アイーナ	三上拓雄、相馬良子
2月27日	～	2月28日	防火管理講習	岩木文化センター	三上拓雄、金枝友和
3月26日			北研　春期視察研修会	南三陸ホテル観洋	山内彩子、金枝友和
					計59名

【総会・会議　等】

実施日			会議名	場所	出席者
4月13日			まるごと大鰐商人の会　会議	日景食堂	田中大生
4月15日			弘前市手をつなぐ育成会　総会	弘前市社会福祉センター	佐藤直幸、白石安英
4月16日			鰐come産直の会　総会	鰐come	佐藤直幸、鎌田健司
4月19日			大鰐町文化協会　総会	大鰐町中央公民館	金枝友和
4月19日	～	4月20日	青森県知的障害者福祉協会　総会	弘前パークホテル	佐藤直幸、白石安英
4月24日			つつじまつり出店説明会	大鰐町中央公民館	田中大生
4月25日			大鰐町農業再生協議会　幹事会	大鰐町役場	田中大生
4月26日			大鰐温泉観光協会　総会	大鰐町中央公民館	田中大生
5月9日			大鰐町農業再生協議会　総会	大鰐町役場	田中大生
5月21日			弘前自閉症児者親の会　総会	弘前市社会福祉センター	佐藤直幸
5月23日			安全運転管理者協会　総会	青森ワイナリーホテル	田中大生
5月25日			さくらジョブネット　総会	フォルトーナ	佐藤直幸、白石安英、田中大生
6月5日			鰐come業者協力会「鰐の会」　役員会	鰐come	田中大生
6月19日			大鰐温泉つつじまつり　反省会	大鰐町中央公民館	田中大生、石戸谷健
6月24日			青森手をつなぐ育成会　総会	福祉プラザ	白石安英
6月26日			SELP協総会（全国大会出店説明会）	ワ・ラッセ	田中大生、石戸谷健
6月26日			ひろネットオンブズマン委員会　総会	弘前市総合学習センター	佐藤直幸、白石安英
7月4日			津軽障害者就業・生活支援センター連絡協議会	ラグリー	田中大生
7月4日			鰐come業者協力会「鰐の会」　総会	鰐come	田中大生

8月22日		ひろネットオンブズマンセミナー実行委員会	ヒロロ	佐藤直幸、山川裕紀子
9月3日		「人・農地プラン」見直しに関する座談会	大鰐町役場	田中大生
9月18日		ふれあい広場　反省会	大鰐町総合福祉センター	山内彩子
9月20日		黒石養護学校　学校公開	黒石養護学校	山川裕紀子
9月24日		まるごと大鰐商人の会　会議	日景食堂	田中大生
10月12日		大鰐町文化協会理事会	大鰐町中央公民館	金枝友和、山川裕紀子
10月17日		まるごと大鰐商人の会　総会	鰐come	白石安英、田中大生
10月30日		大鰐町子ども子育て会議	大鰐町役場	田中大生
11月26日		大鰐町社会福祉大会	大鰐町総合福祉センター	佐藤直幸
11月27日		大鰐町文化協会理事会	大鰐町中央公民館	金枝友和、山川裕紀子
12月5日		津軽障害者就業・生活支援センター連絡協議会	ラグリー	鎌田健司
12月13日		黒石養護学校　進路指導講話　講師	黒石養護学校	白石安英
12月14日		弘前市松原小学校学校運営協議会	松原小学校	白石安英
1月9日		新年互例会	大鰐町中央公民館	秋元広光、白石安英
1月15日		大鰐町地域福祉計画策定委員会	大鰐町役場	田中大生
1月17日		工賃向上支援協議会担当者連絡会議	青森県庁　東棟4階B会議室	田中大生、鎌田健司
1月24日		大鰐町農業再生協議会　幹事会	大鰐町役場	田中大生
1月30日		大鰐町社会福祉協議会　評議員会	大鰐町総合福祉センター	白石安英
~~1月30日~~		~~人・農地プラン　見直し座談会~~	~~鰐come~~	~~田中大生~~
2月4日		大鰐町子ども子育て会議	大鰐町役場	田中大生
2月7日		弘前市松原小学校ゲストティーチャー	松原小学校	白石安英
2月8日		大鰐町農業再生協議会　総会	大鰐町役場	田中大生
2月25日		弘前市松原小学校学校運営協議会	松原小学校	白石安英
2月27日		さくらジョブネット　福祉施設合同説明会	ヒロロ	中嶋綾子
2月28日		大鰐町地域福祉計画策定委員会	大鰐町役場	田中大生
~~3月15日~~		~~弘前大学教育学部附属特別支援学校卒業式~~	~~弘前大学教育学部附属特別支援学校~~	~~佐藤直幸~~
3月15日		青森県立黒石養護学校　卒業式	青森県立黒石養護学校	白石安英
3月18日		大鰐町子ども子育て会議	大鰐町役場	田中大生
3月19日		障害福祉サービス事業者集団指導	リンクモア平安閣市民ホール	佐藤直幸、白石安英、他6名
3月22日		大鰐町社会福祉協議会　評議員会	大鰐町総合福祉センター	白石安英

※　平成３０年度　　研修参加件数　　５２件
　　研修参加人数　　延べ３３０名
　　総会会議等出席件数　　４７回

〈Ⅸ〉 苦情解決（担当：中嶋綾子）

1　施設担当職員
　苦情解決責任者　　施設長　白石安英
　苦情受付担当者　　主任　　中嶋綾子

2　第三者委員
　ひろさき地域福祉ネットワーク・オンブズマン委員会（ひろネット）
　訪問委員　寺口美代子、工藤昌子　（２名）

3　訪問記録

訪問日	委員名	状況と問題点
４／１７	寺口、工藤	５名の利用者と面談　　特に問題なし
５／２２	寺口、工藤	６名の利用者と面談　　特に問題なし
６／２５	寺口、工藤	５名の利用者と面談　　特に問題なし
７／２５	寺口、工藤	５名の利用者と面談　　特に問題なし
８／２３	寺口、工藤	６名の利用者と面談　　特に問題なし
９／２５	寺口、工藤	５名の利用者と面談　　特に問題なし

１０／２４	寺口、清藤	５名の利用者と面談　　特に問題なし
１１／２１	寺口、工藤	６名の利用者と面談　　特に問題なし
１２／１９	寺口、工藤	６名の利用者と面談　　特に問題なし
１／２１	寺口、工藤	６名の利用者と面談　　特に問題なし
２／２８	寺口、工藤	６名の利用者と面談　　特に問題なし
３／２５	寺口、工藤	６名の利用者と面談　　特に問題なし

※　訪問回数　計１２回　　面談者数　延計６７名

〈X〉地域生活支援（担当：田中大生）

1　グループホームすみれ荘

（1）住居　定員６名、現員６名（平成３１年３月３１日現在）
利用者内訳　（一般就労１名、就労継続支援Ｂ型５名）

（2）食事　メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作った。
健康面を留意して、好き嫌いなく何でも食べられるように工夫した。
食事後の食器は、自分の分を自分で洗うように指導した。

（3）生活　一部の利用者間による問題（あいさつをしてくれないという訴えなど）はあるが、本人の話しを聞くことにより落ち着いた生活ができている。
平成３１年４月から世話人の配置換えを行うため、世話人に他ホームの体験や研修を行い、利用者生活の安定を図った。

（4）内容及び次年度への課題
利用者の生活の安定と健康をはかり、住みやすい環境を作っていく。
バックアップ施設として訪問回数を増やし入居者の現状を把握することで、安心した生活と、何でも相談しあえる環境を作りたい。

2　グループホームこすもす

（1）住居　定員６名、現員６名（平成３１年３月３１日現在）
利用者内訳　（就労移行支援１名、就労継続支援Ｂ型５名）

（2）食事　メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作った。
健康面を留意して、好き嫌いなく食べられるように工夫した。
食事後の食器は、自分の分を自分で洗うように指導した。

（3）生活　当法人既存グループホームとは違う新しい生活スタイルのグループホームとして、平成２８年１１月より開所。一般のアパートに近い形になれるよう工夫した作りとそれによる自立度を高める。
平成３１年４月から世話人の配置換えを行うため、世話人に他ホームの体験や研修を行い、利用者生活の安定を図った。

（4）内容及び次年度への課題
利用者の生活の安定と健康をはかり、住みやすい環境を作っていく。
バックアップ施設として訪問回数を増やし入居者の現状を把握することで、安心した生活と、何でも相談しあえる環境を作りたい。

〈XI〉共同受注窓口（担当：田中大生）

1　「津軽地区障害者就労継続支援事業所共同受注窓口　ふらわーずぶるーむ」

平成３０年度は催事への参加日数、売上共に昨年を上回った。また、さくら野で開催した「ノウフク連携マルシェ」も昨年を上回る集客数、売上になったので、次年度も継続したい。

また、各催事にワークショップ大鰐の職員全員が携われたことで、どの催事でも出店の対応ができる体制ができた。

昨年同様、委託販売を主として活動している為、各参画施設の食料品を販売するに伴い賞味期限を見越した商品発注など難しい課題が継続して残っている。

平成３０年度の新たな取り組みとして、「中南地区障害者就労施設工賃向上支援協議会」を実施している。

（１）月別催事売上

「４月」	１４，２０４円	「１０月」	２５，７０５円
「５月」	１８１，６４２円	「１１月」	２０，９５０円
「６月」	３８，５０６円	「１２月」	８，３６０円
「７月」	２６，２０５円	「１月」	９，２９０円
「８月」	１５，２９８円	「２月」	１７，１１０円
「９月」	１９，８７５円	「３月」	１７７，７４６円

（２）年間催事売上　　５５４，８９１円

（３）参加催事

「４月」	２２日	もったいない広場＆ふくしマルシェ
「５月」	１９日～２３日	大鰐温泉つつじまつり
	２７日	まるごと大鰐商人市
「６月」	２日～３日	まるごと大鰐商人市
	２４日	もったいない広場＆ふくしマルシェ
「７月」	８日	りんどう苑夏まつり
	１２日～１３日	社会就労センター協議会（SELP 協）全国大会
	１５日	つきみのまつり
「９月」	２日	茜まつり
	１５日	アップルまつり
	１５日～１６日	ノウフクマルシェ
「１０月」	２１日	復興支援フェア
	２７日	もったいない広場＆ふくしマルシェ
	２９日	青森県社会福祉大会
「１１月」	１８日	もったいない広場＆ふくしマルシェ
	２４日～２５日	大鰐温泉もやしフェスタ
「１２月」	８日	もったいない広場＆ふくしマルシェ
「１月」	１２日	もったいない広場＆ふくしマルシェ
「２月」	２３日	もったいない広場＆ふくしマルシェ
「３月」	２３日	もったいない広場＆ふくしマルシェ

※　計２０回　延べ２８日間

２　中南地区障害者就労施設工賃向上支援協議会（中南地区工賃アップ協議会）

（１）開催日及び参加者数

第１回　平成３０年　７月３０日（月）　２５名
第２回　　１０月　２日（火）　２６名
第３回　　１１月２９日（木）　２０名
第４回　平成３１年　１月３１日（木）　２３名
第５回　　３月　８日（木）　２０名

（２）開催場所

弘前市社会福祉センター　２階　大会議室

３　次年度への課題

引き続き各催事には積極的に参加し、当法人商品はもとより参画施設を含めた当事業としての売上向上を計りたい。

また、平成３０年度は「中南地区障害者就労施設工賃向上支援協議会」を実施し、他施設や自治体との意見交換ができた。令和元年度「中南地区工賃アップ協議会」の取り組みとして、市町村庁舎及び市町村管理施設の活用による販売や、市町村が開催する各種イベントに使用する記念品受注及び販売ブースの確保及びその役務受託や、市町村広報誌等を使った製品販売のＰＲ要請。また、商工会及び商工会議所を通じた各企業への障害者の就労に関するアンケートの実施とその結果をふまえ、就労や工賃向上につなげるための話し合いを行いたい。

〈Ⅻ〉安全巡視（虐待防止委員会）（担当：佐藤直幸）

１　安全巡視実施日

実施日	担当者	実施内容
８／１０	中平恵美・田中大生	法人事業所全部を訪問し注意箇所を点検、事業会議で報告し検討する。
９／１８	竹内友紀・山内彩子	
１２／１９	植田善久・中嶋綾子	
３／１４	鎌田健司・三上拓雄	

今年度は３ヶ月に１回、キャンパス・ショップより各１名ずつ選出し実施した。前年度より改善箇所が少なくなっており、環境の整備がはかられてきたように感じる。

引き続き環境の整備の確認をしていきたいと思う。

２　虐待防止委員会実施日

実施日	参加者	実施内容
３／１１	理事長・佐藤施設長・白石施設長 キャンパス親の会長　浅利金利 オンブズマン　村上英子・工藤昌子	平成３０年度の虐待に対する取り組み等を報告、検討をした

今年度の虐待防委員会実施はマニュアル通りに実施、これにより役割を大きく変更した。虐待防止員会としてキャンパス親の会会長と第三者委員としてオンブズマン委員に参加してもらい、虐待防止に関しての取り組みの報告と検討をした。

（別冊）